



MG-LAC 2025 年度 活動報告

愛のある知性を。
宮城学院女子大学



MG-LAC

(宮城学院女子大学リエゾンアクションセンター)

地域と連携し、 学生の自主活動をサポートします。

宮城学院女子大学は、地域社会と連携し、学生の自主的・実践的な学び、社会貢献の場を提供しています。

MG-LAC (エムジー・ラック)

MG-LAC とは、「宮城学院女子大学リエゾンアクションセンター」の略称です。「リエゾン (Liaison)」はフランス語で「連携」という意味で、自主的・実践的な社会貢献の場として、学部学科を超えた学生同士、学生と教職員、大学と地域社会がつながり、協働して活動を作っていくという意図と願いが込められています。

MG-LAC では、大学での学びを活かした学生のプロジェクト型自主活動*を支援するとともに、学内外より様々なボランティア依頼を受け付け、興味を持った学生とのマッチングを行っています。

*プロジェクト型自主活動 … 学生たちが授業やサークル活動以外で「やりたいこと」に主体的に取り組む活動です。社会人基礎力を養うことにもつながります。



学生が自主的に企画・運営するプロジェクト活動

MGPR

@mgu_mgpr
@MgprMgu

現代ビジネス学科 3年 高野 愛理



今年度は55名という大人数で活動しました。オープンキャンパスでは「キャンパスツアー」、「トークライブ」、「パトロール隊」などの企画運営をし、積極的に宮学の魅力を発信してきました。そして人数が多いからこそできる新企画への挑戦や「なんでも相談BOX」の設置など、高校生に寄り添った活動ができたと感じて

います。また、学外で行われるイベントにも積極的に参加し、多くの方に宮学、そしてMGPRの存在を知っていただいた1年でした。高校生に寄り添うことはもちろん、メンバーのみんなが楽しく活動すること、そして「MGPRに入って良かった」と思ってもらえることを心掛けて活動をしてきました。メンバー一人ひとりが役割を担い、時には悩みながらもやりがいを持って活動する姿は輝いており、代表の私もその姿に支えられました。メンバーの成長を感じながら、一緒に活動することのできたこの1年間は私にとっての宝物です。



にじいろプロジェクト

@niji_niji_mgu

教育学科健康教育専攻 3年 赤間 圭

今年度は、LGBTQ+の当事者の方が過ごしやすい環境づくりを目標に活動を行いました。春には新加入の学生が2名加わり、メンバー間で役割分担を行いながら活動を進めていく体制を整えました。10月の大学祭では、講演会の企画とユニバーサルトイレのマップ作成という二つの取り組みを同時に実施しました。準備期間中は忙しいと感じることも多くありましたが、仕事を分担して互いに協力して取り組むことによって、二つの活動それぞれに納得のいく成果を上げることができました。また12月には、新たな試みとして学内映画上映会を

実施しました。初めてのことで運営面での課題が多く残る結果となりましたが、情報発信の方法や観る人の関心を引く作品選びなど、今後に向けた課題が明確になりました。これらの反省点を生かし、次回の活動ではより良い成果につなげていきたいと考えています。



Food and Smile!

@mgu_fas

食品栄養学科 3年 角張 結華



昨年に引き続いて参加している各種防災講座や料理教室、防災レシビカレンダー制作プロジェクト、ラジオ放送に加え、念願叶って当団体 OG の先輩方を招いた交流会も実現

できました。活動を通して繋がった人々と関わる中で、『食の防災』に対する気付きや理解が深まることも多く、モチベーションを高めながら活動できた1年でした。新たなレシビ制作企画や防災講座、勉強会の準備など、忙しい中でもメンバーや周囲の人々の力を借りて充

実した活動ができていると感じます。メンバー数が昨年度の倍に増えた反面、思うように予定を組めなかったり、役割分担をうまくできなかったりしたので、来年度には改善していきたいと思っています。積極的にチャレンジする気持ちを忘れずに、食を通じて人々に良い影響を与えていけるよう、真摯に活動していきます。



Sp@t A You

@say_mgu

食品栄養学科 3年 小野寺 結彩



活動の性質上、サポートチームごとのグループ活動が多いのですが、今年度はSAY全体での活動を増やし、メンバー間のコミュニケーションを活発にすることを目標に活動しました。前期はリーフレットの作成・発表、後期はサポートチームごとに模擬指導を行いました。1・2年生は媒体作成や栄養指導の流れについて学び、3年生は1・2年生の媒体や指導の様子を見て、見落としがちな点や新たな視点を得て実際の栄養

指導に役立てるよう検討しました。結果として、全体での意見交換を活発にすることができ、得たものを各グループ活動に持ち帰って活かすことができたと思います。各グループ活動(サポートチーム)でも活動回数を増やし、昨年度よりも選手とコミュニケーションの機会を増やすことができました。これからも選手からの信頼が得られるように、メンバー全員が主体的に考え、より良い栄養サポートを実現していきたいです。



Heartful Sweets

@heartful_sweets

食品栄養学科 3年 後藤 陽鞠



私たちは、アレルギー対応の手作りお菓子、レシビカードの提供とアンケートの実施を通して、子どもたちやご家族がほっと温まるような場を作ることを目的に活動しています。宮城県立こども病院に入通院する患者さんやそのご家族が利用する施設「ドナルド・マクドナルド・ハウスせんだい」での月に一度の活動では、施設利用者みなさんに楽しんでもらえるように、お菓子の種類やラッピングをメンバー

と一緒に考えていきます。10月はハロウィンに合わせてかぼちゃを使用したおばけマフィン、12月にはサンタクロースをモチーフとしたレシビカードを添えて、季節や行事を感じられるよう工夫しました。また夏休みには、同じキャンパス内にある森のこども園の児童クラブに通う小学生と一緒にお菓子作りを行いました。ちょうどその日が誕生日だった子から「楽しい誕生日になった、ありがとう」という言葉をもらって、とても嬉しく印象に残っています。



楽食プロジェクト

@gakushokuproject

@mg_gakushoku_p

食品栄養学科 3年 清水 日菜



今年は「MG スープの日」*における活動に参加しました。会場準備や、誘導、整理券の配布、片付け、インタビュー、記事の執筆、写真撮影など幅広い業務を担当しました。

一方、例年行っている学生食堂ピエリスでの活動は、メンバーの学外実習期間と食堂営業の都合などの兼ね合いで、今年は思うような活動ができませんでした。改善のためには、食品栄養学科以外の学科の学

生を募集し、どの時期にも対応できるような体制にすることが必要だと感じました。早めの準備とメンバー間のコミュニケーションにも工夫が必要だったと反省しています。来年は、学食特別メニューの試食会を早い時期に行うなどして、新1年生・2年生のメンバー募集をしっかりとりたいと思います。

*「MG スープの日」とは、学生支援活動の一環として、日頃不足しがちな野菜の摂取を補うよう、「伊達芋煮」や「ズッパ」のスープメニューを配布した、本学学生部主催の活動です。



小さな図書館プロジェクト

@lfl_mgu
@LFL_mgu

日本文学科 3年 阿久津 春菜



昨年度に引き続き、大学構内と商業施設 BRANCH 仙台にあるまちづくりスポット仙台に設置した本棚の運営を行いました。本棚運営では、月に1回程度の本の入れ替えと整理、装飾やPOPの変更を行い、本を管理するケースも新調しました。また、本棚に感想カードを設置することで、



本を通じた交流を図りました。イベントについては、まちスポ仙台で行われたイベントや、将監市民センターのおはなしボランティア、大学祭に参加しました。絵本の読み聞かせを中心に、ミニ本作りや蔵書票作りのワークショップも行いました。折り紙をお土産として配布するなど、参加者に本を楽しんでいただく工夫を凝らし、本に親しみきっかけづくりに取り組みました。

国際支援活動 Triangle

@Triangle_mgu2024
@Triangle_mgu

人間文化学科 3年 加藤 愛華

今年度は、フェアトレード商品の販売による寄付に重点を置いた活動を行いました。10月の大学祭ではフェアトレード商品の食品を使ったカフェを開き、多くの方々にお越しいただきました。12月のクリスマスを祝う音楽会でもフェアトレード商品のピンキーリングを販売し、こちらも多くの方々に購入していただくことができました。プロジェクトの運営面では、当初企画していた活動を計画通り実施できなかったことや、新入メンバーとのコミュニケーションが不足していたところがあるなど、代表としての自分の力不足を感じる場面が多くあ

りました。しかし、メンバーと協力して活動して2つのイベントを無事実施できたことは、自分にとって良い経験であり楽しく活動しながら学ぶことができたと感じています。



STUDY FOR TWO

@study42mg
@study42MG

人間文化学科 2年 嵐田 実侑



今年の活動は、所属人数が多い2年生が主体となって活動しました。毎週1回行うミーティングでは、学年を問わず意見を出し合いながら、活動計画を立てることができました。4月の販売会から冬の回収までの間、特に広報を工夫することで目標達成を目指しました。具体的には、使用済み教科書回収ボックスの場所をInstagramのリアル動画として投稿した



ことで、多くの人にボックスを利用してもらったように思います。そして、販売会や回収の活動終了後は振り返りのミーティングを行い、活動を追うことにより良い内容へと改善できたように思います。今年は大学祭にも出展したことで、学生のみでなく学外の方にもSFTを知ってもらいきっかけとなったと思います。今後もメンバー一同活動に積極的に参加して、途上国の子どもたちへの教育支援となるよう、さらに貢献していきたいです。



桜ヶ丘古文書プロジェクト

@sakuragaoka_komonjyo

人間文化学科 4年 佐藤 ひより



宮城県内でも数多く残されている古文書ですが、頻発する災害や当主の代替わりなどによって、消滅・散逸の危機に直面しています。桜ヶ丘古文書プロジェクトでは、学内での古文書のデジタル撮影、解読作業をはじめ、東北大災害研(宮城資料ネット)でのクリーニング作業など、活動を広げています。

古文書は、地域の歴史を語るための貴重な文化財であり、実際に触れてみることの体験が、この活動の醍醐味であると感じています。今年度は、宮城学院資料室に保管された史料の撮影や、顧問の高橋先生所有の古文書を扱った活動など、メンバーにとって貴重な体験ができました。春休みの宮城資料ネットでの保全活動をもって、今年度の活動は最後となりますが、毎年新規メンバーの参加者が増え、資料保全に関心のある方が増えてきたことを実感しています。



「生きる」をつなぐプロジェクト

@mgu_ikiru.pj

日本文学科 4年 鈴木 桃香

このプロジェクトは、能登半島地震の被害を受けた石川県七尾市への訪問をきっかけとして、2025年度に新たに発足した自主活動です。現地の方々との交流から生まれたつながりを継続的なものにしたいと考えたこと、また東日本大震災を経験した学生が少なくなりつつある本学において、震災について語り、記憶を継承する場をつくりたいと



いう思いが発足の背景にあります。具体的な活動は、東日本大震災の学び直しとして、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の訪問や、せんだいメディアテークでの「わすれん！録音小屋」への参加を行いました。また、大学祭での展示発表を通じて、学外の方々にも私たちの活動を知っていただくとともに、震災について語り合う場を生み出すことができました。さらに、学内で開かれた「キャリアアップセミナー」にて、能登訪問の報告を行う機会をいただき、メンバー以外の学生に広く伝わっていく手応えを感じました。



MGSS (宮城学院女子大学スポーツサポーターズ)

@miyagaku_mgss

食品栄養学科 3年 五十嵐 妃菜



今年度は「自身の健康状態を知る機会の創出」を主軸に活動を行いました。学外のオフィスビルで一般企業にお勤めの方々を対象に、また学内では大学祭の来場者を対象に体組成計測を実施し、計測データから分かることを個別に説明しました。イオンモール新利府でのイベントでは、子どもを対象とした運動あそびコーナーを担当しました。対象者の年齢やライフステージ



が異なる中で活動を行う難しさもありましたが、一緒に活動したメンバーや先生方、イベントの実施にあたり協力してくださった企業の方々のサポートを受けながら、充実した活動を行うことができました。「自分を知る良い機会になった」「走るのって楽しい！」など前向きな声を聞くことができ幅広い世代の方に健康意識や運動の機会を提供できたと思います。この経験を通じて、対象者の視点に立ち、コミュニケーションをとることの大切さを実感できました。



'olu'olu

@oluolu_vol2024

英文学科 3年 北島 愛里

今年度の一番の成果は、東日本大震災での実話を題材とした、紙芝居動画の英語吹き替えを担当するという貴重な経験をさせていただいたことです。被災地・石巻へ赴き、被災されたお子さんのお母様に会い、



当時の状況やお子さんとの思い出を直接お聞きしたことで、この紙芝居の大切さを実感しながら、心を込めて音声吹き込むことができました。また、昨年度に引き続いて保育所での

英会話教室に加え、大学附属こども園の放課後児童クラブでも英会話教室を開催することができました。今年は同じ保育所で年間3回の活動を実施し、子どもたちが回を重ねるごとに、積極的に楽しんで英語に触れてくれるようになったことがとても嬉しかったです。児童クラブでは、小学生を対象とする活動は初めてだったので、英語のレベルをどのように設定したら良いか悩みましたが、最終的にはどの子も楽しんで参加してくれていたため、挑戦して良かったと思います。



Discover Your Own MIYAGI

@miyagaku_dyom

教育学科児童教育専攻 3年 高木 希乃花

今回のプロジェクトでは、計画を立てて実行することの難しさと大切さを強く実感しました。宮城の良さを発見して発信することを目指して活動を始めたものの、当初は目標が曖昧で、何から始めればよいか迷う場面も多くありました。しかし、メンバー間で話し合いを重ね、方向性を少しずつ明確にすることができました。



意見の違いに戸惑うこともありましたが、それぞれの考えを尊重しつつ、より良いアイデアへと発展させることができました。実際の活動としては、仙台駅周辺と松島周辺で2回のフィールドワークを行い、その様子をSNSなどで発信しました。



このプロジェクト活動を通して、協力することの価値や、責任感を持って最後までやり抜くことの重要性を学ぶことができました。この学びを今後の学業や他の活動にも生かしていきたいです。





学内ボランティアクラブ

現在、宮城学院女子大学には3つの国際奉仕団体の学生組織があります。知見を広げ、社会で責任を果たし活躍する女性となるべく、活動しています。

ゴールデンズクラブ

@mgu_goldenz



英文学科 2年 藤原 喬

宮城学院女子大学ゴールデンズクラブは、「女性の支援」を目的として活動しているボランティア団体です。仙台Iゾンクラブを親クラブとする学生クラブで、地域社会や人々とのつながりを大切にしながら活動しています。私たちは「女性支援」の他にも、さまざまな分野のボランティア活動に積極的に参加しています。具体的には、仙台市消防局の女性防火クラブの活動に協力する形で、泉区ふるさと祭りの運営補助、幼稚園を訪問して子どもたちに防災についてゲームを通して楽しく学んでもらう活動に取り組んでいます。また、仙台Iゾンクラブ主催の講演会や行事のサポートも行っています。これらの活動を通して、年齢や立場の異なる多くの人々と関わることができ、社会貢献の大切さや人と協力する喜びを実感できる、非常に魅力的なサークルです。

さくらレオクラブ

@mgu_sakura

@sakura_leoclub



現代ビジネス学科 2年 佐野 莉緒

さくらレオクラブは、世界最大の奉仕団体である「ライオンズクラブ」の中の「仙台青葉ライオンズクラブ」を親クラブとした学生団体です。私たちは、ジャンルを問わずさまざまなボランティアを行っています。今年度は、大学のキャンパスがある桜ヶ丘の連合町内会が開催する桜ヶ丘夏祭り、子どもたちの遊び場である「ちびっこひろば」を担当させていただいたほか、選挙の時期には泉区役所が行う投票の啓発活動に協力して、学内でのティッシュ配布を行いました。さらにフードパントリーとして、仙台青葉ライオンズクラブから提供いただいたお米を学生に配布する活動も実施しました。私たちは、地域の方々に支えられながらボランティア活動を行い、貴重な経験を積むことができます。今後も地域の方々への感謝を忘れず、ボランティアを通して地域に貢献していきます。

サークルK

@mgu.cki



教育学科児童教育専攻 2年 杉尾 菜々心

サークルKは、一般社団法人仙台キワニスがスポンサーとなり、「子どもたちへの支援」を目的に活動している学生団体です。キワニスドール作りをはじめ、児童館でのボランティアや子ども食堂の運営補助など、さまざまな形で地域の子どもたちと関わっています。活動を通して、一人ひとりの気持ちに寄り添うことや、人と人とのつながりの大切さを学んでいます。また、重度の心身障害をもつ子どもや医療的ケアが必要な子どもたちを支援する、仙台市泉区のNPO法人UBUNTUでの活動にも参加しています。学生ならではの行動力を生かすことのできる、魅力的なサークルです。これからも地域に貢献する活動を広げていきます。

地域貢献への取り組み いずみ絆プロジェクト

■青木ゼミ

「教員を目指す学生と地域住民の交流プロジェクト

—将監ふれあい公園の再整備をきっかけとして—

養護教諭や保健体育教諭を目指す学生たちが、市民センターや公園を場として、複数回の健康測定会や運動遊び教室を実施することで、地域の子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民と交流し、生涯にわたる健康増進に寄与する活動を実施しました。





ボランティア活動報告

学外でのボランティア活動に取り組んでいる学生にインタビューをしました。

心理行動科学科 4年
郷古 実玲さん

食品栄養学科 2年
櫻田 百合香さん

食品栄養学科 1年
安藤 楓さん

SENDAI 光のページェント実行委員会のユース部会に参加しました。イベントの企画段階から長期的に関わり、一緒に活動する仲間とライトアップ点灯時の歓声を聞いた時には達成感を感じましたし、ユース部会の企画を楽しむにきたというお声をいただいた時はとても嬉しかったです。他にも、自治体主催イベントのボランティアに積極的に参加していたところ、イベントの企画運営を任せただけのまですになりました。来場された方から対応を褒められたり、「郷古さんがいてくれて助かった」と声をかけてもらったりして、大きなやりがいを感じました。大学では、MG-LACの掲示板やメール



配信で様々なボランティアに関する情報に触れる機会が多くあります。一步踏み出すことは勇気がいると思いますが、人との縁や自分の力に変わっていくので、ぜひ挑戦してみてください。



私は食品栄養学科に在籍しているので、こども食堂での食事の提供や子どもたちとの交流に興味があり、こども食堂の活動に参加しています。毎月来てくださるご家族に顔を覚えてもらったり、帰り際に元気に笑顔で手を振ってくれたりしたときには、一緒に時間を過ごすことができ良かったと感じます。接する子どもの年齢は未就学児から小学生までと幅が広く、年齢に合わせた遊び方や声がけを工夫しますし、保護者の方とお話する機会もあってコミュニケーションの取り方が身についたと思います。ボランティア活動を始めるとはハードルが高いと感じていましたが、実際に参加してみるととても楽しく続けることができています。授業や課題、実習など、学業の面で忙しいこともありますが、学外でのボランティア経験を通して、大学生活がより充実したものになります。



人と関わったり、計画を立てたりすることが好きで、将来のためにも地域の方と関わるボランティアをしてみたいと考えていた時、女子プロサッカーチーム・マイナビ仙台レディースのホームゲームに合わせたイベントボランティアの募集を見つけました。ワードハントとガチャボン抽選コーナーを担当し、出題内容やイベントブースの装飾など、短い準備期間でも一緒に活動した学生同士で協力して進めました。当日は、マイナビ仙台レディースの選手やサポーターの皆さんが温かく声をかけてくださり、とても嬉しかったです。この活動を通して、幅広い年代の方に楽しんでいただくイベントにするためにどうしたら良いか考える力が身に付いたと思います。これから新しいことを始めようと思っている人に声をかけるとしたら、はじめは不安でも、興味のあることであればきっと後悔はしないはずなので、ぜひ挑戦してみてください。



地域における支えあいと協働の輪を広げる活動に助成する仙台泉区「いずみ絆プロジェクト」において、2024年度に引き続き教育学科健康教育専攻の青木ゼミ、食品栄養学科の学生が取り組む自主活動プロジェクト Sp①t A You (スポットアユー) の2団体が活動しました。

■ Sp①t A You

「部活を頑張る選手を応援するプロジェクト」

管理栄養士を目指して学ぶ学生たちの中でも、特にスポーツ栄養に関心の高い学生が集まり、スポーツに取り組む大学生(東北学院大学体育会サッカー部)・生徒(宮城県泉松陵高等学校)に、食事に関する情報や補食の提供を行う活動を実施しました。



小学生のためのサマーカレッジ

毎年夏の恒例行事となっているこのイベント。今年は小学生約60名が参加し、本学教員とサポート役の学生たちとともに、キャンパス内の豊かな自然の中で「遊び、学び、表現する」をテーマとしたプログラムを実施しました。自ら問いを発見し考えることを楽しむこと、自然と親しみ新たな感性の世界を拓くことを体験した2日間は、子どもたちにとって夏の特別な思い出になったことでしょう。(今年度の企画は、「こどもゆめ基金」の助成を受けて実施しました。)



宮城学院女子大学サテライトスポット開設

本学がかねてより連携協定を結んでいる認定NPO法人まちづくりスポット仙台様と新たな覚書を交わすことにより、本学にとって初めてのサテライトキャンパスとなる「サテライトスポット」を開設しました。「サテライトスポット」は、本学のキャンパスからほど近い商業施設内に立地し、公開講座や授業・ゼミ活動等への利用の他、自主活動やボランティア活動に励む学生にとってはまちづくりスポット仙台のスタッフによるサポートも受けることができるなど、キャンパスの外と大学・学生・教職員を繋ぐ新たな場が生まれたことで、本学の社会連携・地域貢献の活動がより一層ひろがることを目指します。



大人も子供も健康チャレンジ(イオンモール新利府)

イオンモール新利府の協力のもと、2024年度から本学によるイベント開催をしています。2回目となる2025年度は、ショッピングと併せて健康を意識してもらおうきっかけづくりを目指したイベントを開催しました。本学のジェンダー教育研究センター スポーツサイエンス研究チームの教員と、自主活動プロジェクト「MGSS」と「MGPR」、学友会サークル「オリエンテーリング部」の学生たちが共に企画を運営しました。「カラダ測定」では体組成と筋力の測定のほか、日々の野菜摂取量を簡単に測定できるベジメーター測定も用意して、普段の暮らしや食事を見直す機会を提供しました。「運動あそびコーナー」では、遊びながら体を動かすゲーム感覚のアトラクションを実施。「オリエンテーリングチャレンジ」は、館内に設置された5つのチェックポイントをクイズに答えながら巡って、しっかり歩くアトラクションとしました。



福祉作業所製のパン販売会(宮城学院中学校高等学校)

学校法人宮城学院は、「みやぎの福祉的就労施設で働く障害者官民応援団」に加入しています。障害のある方の雇用や賃金の安定・向上につながる支援の一環として、障害のある方が製造するパンの特別販売会を宮城学院中高生向けに企画しました。みやぎセルフ協働受注センターのご協力のもと、合同会社ビッグママ「おいしいパン屋さん」にお越しいただき、販売サポートには本学の学生有志が集まりました。当日は、販売開始時間前から生徒たちが列を作り、あっという間に完売。たくさん並んだおいしそうなパンを前に迷っている中高生に、大学生が寄り添いながら会話する様子が随所で見られました。今回集まった有志の学生のほとんどが宮城学院中高卒業生で、普段学校の中では買うことができないパンを後輩たちに楽しんでもらうことができてよかった、とそれぞれ笑顔で感想を話していました。



◆ボランティア・各プロジェクトについてのお問合せは MG-LAC までご連絡ください。

宮城学院女子大学リエゾンアクションセンター (MG-LAC)

〒981-8557 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1

TEL: 022-279-1340 FAX: 022-279-5876 E-mail: lacvolu@mgu.ac.jp